

不妊治療中のカップルに対する パートナーシップ支援プログラムの効果

東京医療保健大学
朝澤恭子

不妊治療を受ける患者さんの悩みは？

- 不妊症患者数が急増する中で多くの苦悩を持つ対象者へのケアは喫緊の課題
- 治療による精神的苦悩の増加、QOL低下
- 夫婦関係悪化(27.1%), 離縁を考慮(23.2%)
- 夫のサポートの少なさは女性のストレスと関連



- 不妊治療中カップルへのパートナーシップ支援が必要

研究目的は？

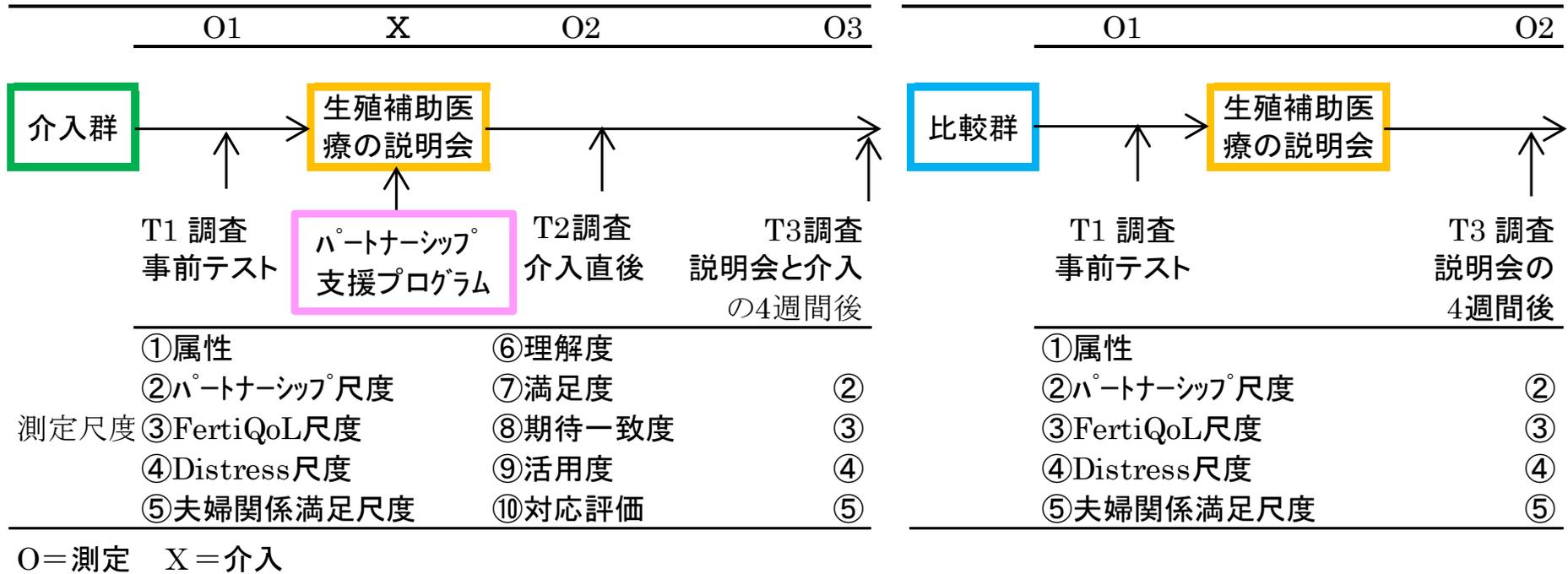
不妊治療中のカップルに対して、パートナーシップ支援プログラムを実施し、効果を検証する。

次の4仮説を立てました。

1. パートナーシップ向上
2. QOL維持
3. 精神的苦悩の減少
4. パートナーとの関係満足度の増加

研究の意義：精神的苦悩を軽減する一助となる。

研究プロトコルは？



「パートナーシップ支援プログラム」に参加する介入群と、プログラムに参加せずに通常のケアを受ける比較群を、期間別に設定した2群事前事後テストデザインの準実験研究.

調査方法と対象者は？

データ収集期間：2013年4月～11月

対象者：研究に同意が得られた施設で不妊治療中のカップル。

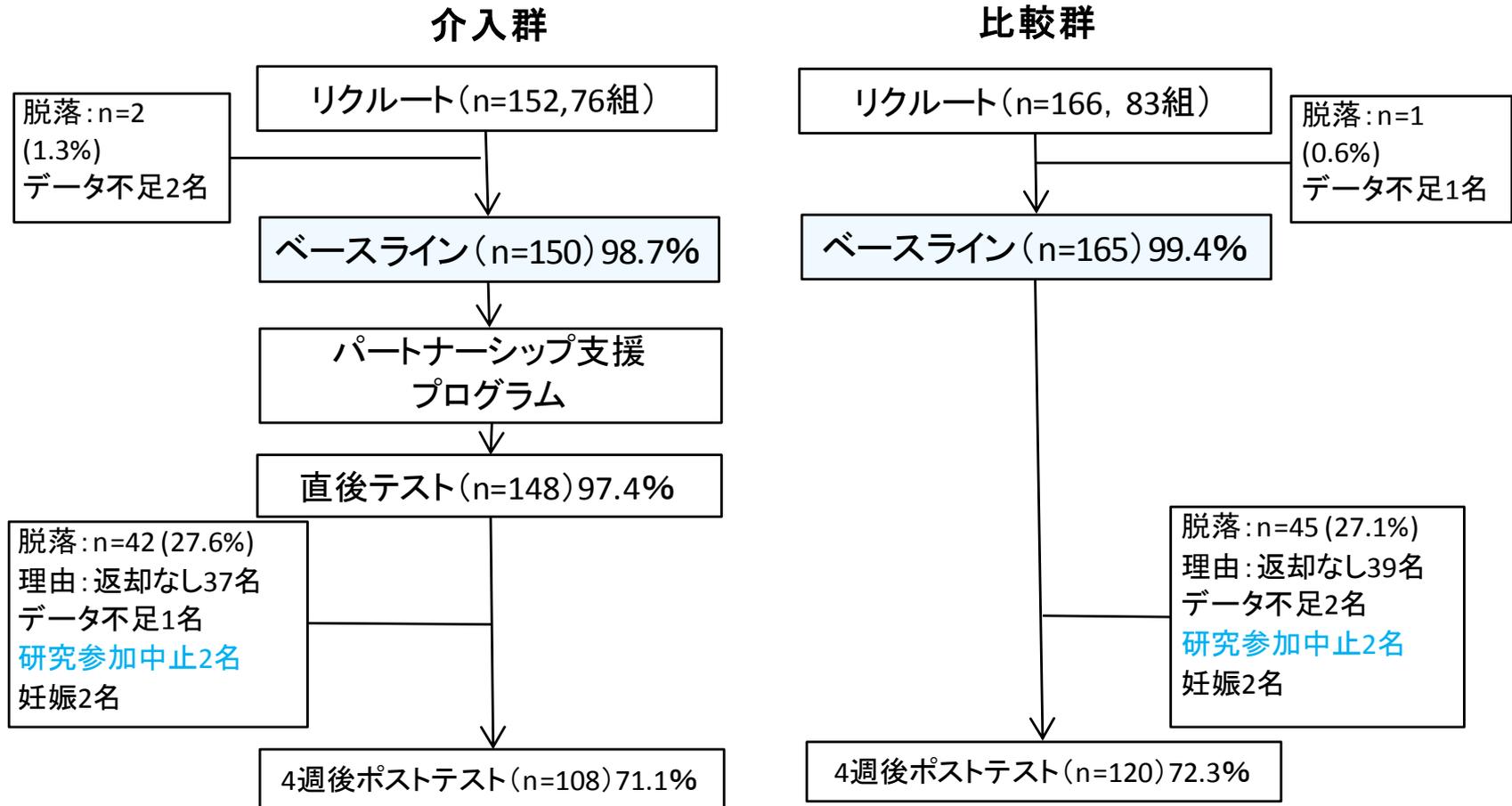
- (1) 生殖補助医療を初めて予定し一般不妊治療中。
- (2) プログラムにカップルで共に参加。
- (3) 担当医による研究協力参加の許可。

各群77組，合計154組（308名）の方々の研究参加が必要でした

介入プログラムは？

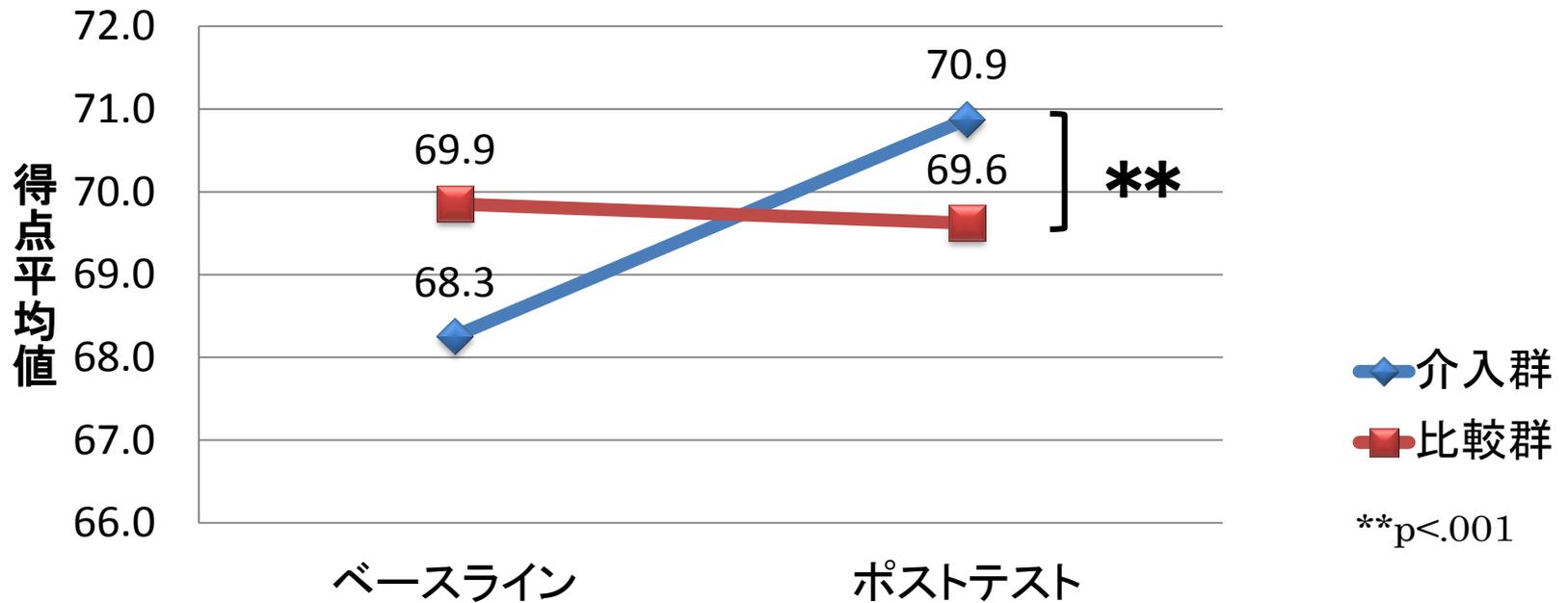
| 構成 | 内容 | 時間 |
|--------------------------|--|-----|
| 1) 治療段階における 心理状態の情報提供 | ＜レクチャー＞ | |
| | 1 生殖補助医療の準備 | 5分 |
| | 2 生殖補助医療中のストレスと男女差 | 5分 |
| 2) 治療の協力内容の 情報提供 | 3 生殖補助医療中の男女別の気持ち | 5分 |
| | 4 治療段階ごとのカップルの協力 | 5分 |
| | 5 妊娠判定後の情報とカップルの協力 | 5分 |
| | 6 DVD視聴 | 5分 |
| 3) カップルのコミュニ ケーションの促進 | 「夫婦で向き合う不妊治療 夫婦のコミュニケーション術」 | |
| | ＜参加型演習＞ | |
| | 7 エクササイズとディスカッション コミュニケーションシートを用いて 考えと気持ちを確認 参加者の意見交換 | 30分 |

結果1: 対象者の研究参加状況



対象者のフローチャート (n=318)

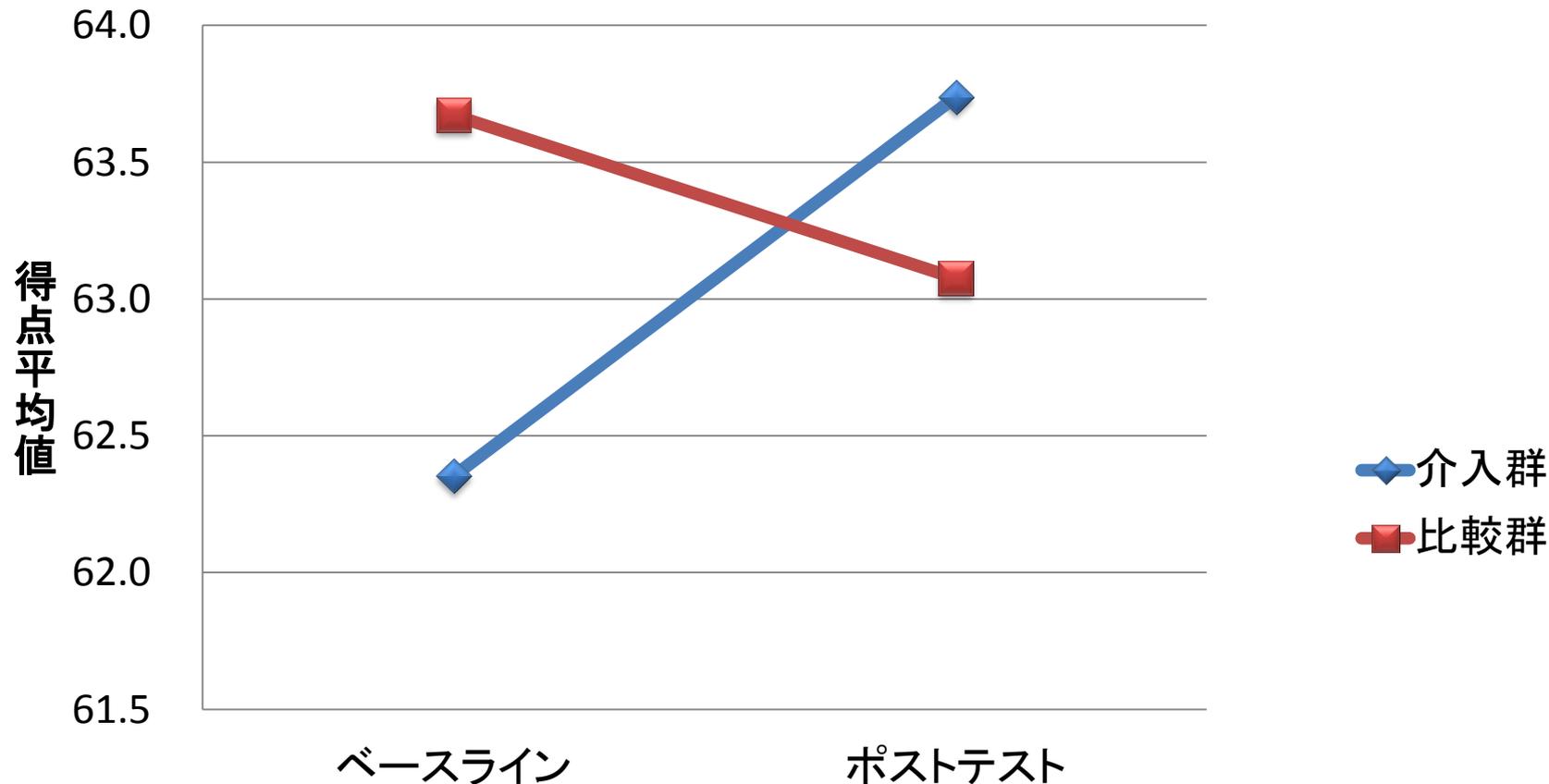
結果2: 反復測定二元配置分散分析



パートナーシップ尺度得点平均値の変化(n=311)

仮説1「介入群は比較群より介入前後のパートナーシップ尺度得点増加の変化量が大きい」を支持.

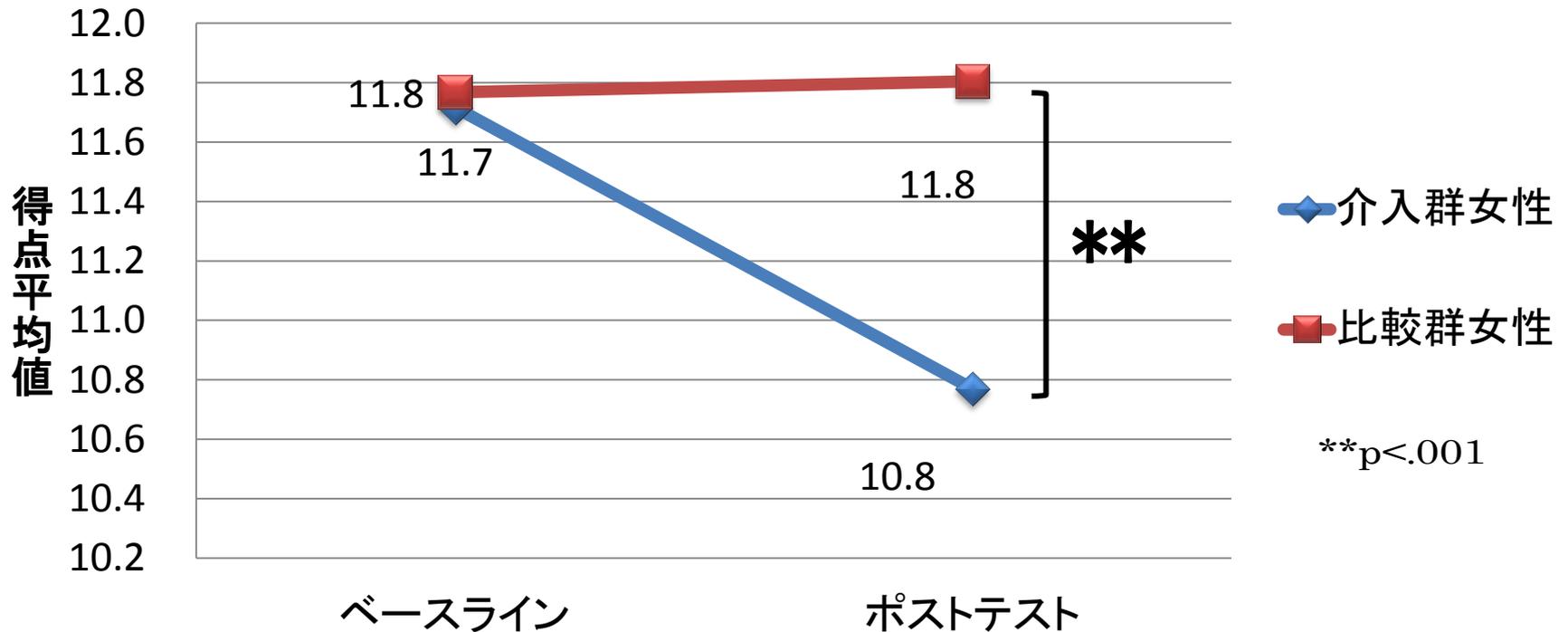
結果3



FertiQoL尺度得点平均値の変化(n=311)

仮説2「介入群は比較群よりQOL尺度得点減少の変化量が少ない」は不支持.

結果4



女性におけるDistress尺度得点平均値の変化(n=156)

仮説3「介入群は比較群よりDistress尺度得点減少の変化量が大きい」は女性群に対して支持.

結果5

介入の有無と時間による反復測定二元配置分散分析(n=311)

| | SS | df | MS | F | p-value |
|-------------|-------|----|-------|------|---------|
| 夫婦関係満足尺度 時間 | 13.08 | 1 | 13.08 | 4.41 | 0.037* |
| 介入の有無 | 46.58 | 1 | 46.58 | 1.96 | 0.163 |
| 時間×介入の有無 | 0.06 | 1 | 0.06 | 0.02 | 0.883 |

*p<.05

仮説4「介入群は比較群より夫婦関係満足尺度得点増加の変化量が大きい」は不支持.

結論

パートナーシップ支援プログラムは、不妊治療中のカップルに対してパートナーシップの向上に有効であり、**女性を対象とした場合に精神的苦悩の改善に効果がありました。**

生殖医療を受けるカップルに対して、負担が少なく治療継続できるために、パートナーシップ支援の介入、プログラムの普及が必要です。